

お菊さんと一町六反

比奈ひなにある市立昭和幼稚園の片すみに「お菊塚」があり、毎年六月上旬には、園児と父母による「お菊まつり」が行われています。

江戸時代にまつわる働き者のお菊さんと一町六反の話をたずねてみました。

東国の「お菊さん」は、若いころ遊ぶことが大好きで、毎日毎日遊びほうけていました。でも、ある晩死んだ父親の夢を見て、今迄のことを深く反省し働かなくてはいけないと決心しました。

東海道を西に下つて比奈村まで来たお菊さんは、景色のよいこの村が気に入る住むこと



昭和幼稚園にあるお菊塚

昭和五十七年二月五日号

にしました。

百姓の手助けをして朝から晩まで村人が驚くほどよく働きました。

いつしかお菊さんは、村人にかわいがられ、そのうち自分でも田を買って一町六反の田を作るようになりました。

その日もお菊さんは、朝早くから田植えをしていました。もう少しで終わろうというとき、太陽が西の山に沈もうとしていました。

「ああ／＼おてんとうさまが、もう少し待ってくれたらなあ」

するとどうでしょう。沈みかかっていた夕日は、西の山から顔を出したではありませんか。

「ありがたや、ありがたや」

田植えが終わったお菊さんはそのまま倒れ

て死んでしまいました。

それからのち、この付近の田を、誰いうとなく一町六反というようになり、お菊塚が建てられました。

郷土を知ろう

市立昭和幼稚園々長 中村美代子さん

昭和幼稚園では、六年ほど前から「郷土を知ろう」ということで、地域に伝わる昔話をほりおこして園児や父兄に伝えているんですよ。

この話もその一つで、働くことの尊さや根性を子どもたちに学ばせたいと思っています。これからも伝承を大事にして、郷土を愛する気持ちをいつまでも持ち続けてほしいと願っています。